

教育委員会

だより

田ノ口小学校

「意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成」

校長 石川 恭弘



田ノ口小学校は、私小説作家の上林暁が卒業した学校で、校舎のすぐそばには田ノ口古墳があります。

国道沿いにある学校として、以前より児童の交通安全を重視して、運動場のフェンスに看板をつけているため、学校名を知らない方からも「車さん気をつけてね」の学校とよく言われます。

本校は、児童数66名、職員数11名で、昨年度に引き続き「意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を学校の教育目標に掲げています。

目指す児童像

- ① たくましい子ども
- ② びのびと表現する子ども
- ③ じけなない子ども
- ④ からを出しきる子ども

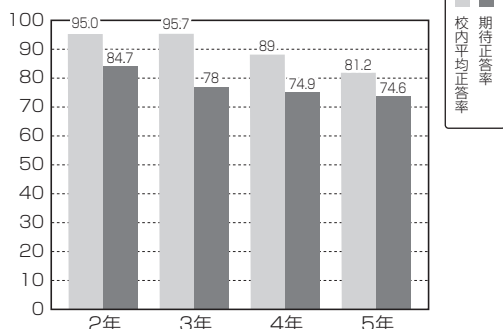
目指す学校像

- ① いさつの響きあう学校
- ② いじめのない、生き生きとした学校
- ③ つくしい学校
- ④ がおいっぱいの学校
- ⑤ もいやりのある学校

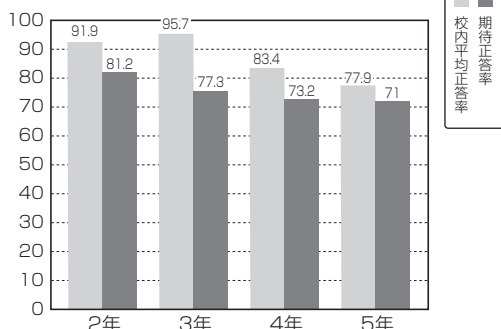
今年度で3回目になる全国学力・学習状況調査では、高知県は大変厳しい結果になっています。そのため本校では子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上に向けて、重点的に取り組んできました。子どもたちが昨年度の学習の内容をどのくらい理解しているか、学んだことがどのくらい身についているかを調べる標準学力調査の結果を見る

と、どの学年も期待正答率よりも高い結果になっています。しかし算数科の正答率に比べて国語科の正答率がやや低くなっているため、本校では国語科に重点をおいて取り組んでいます。

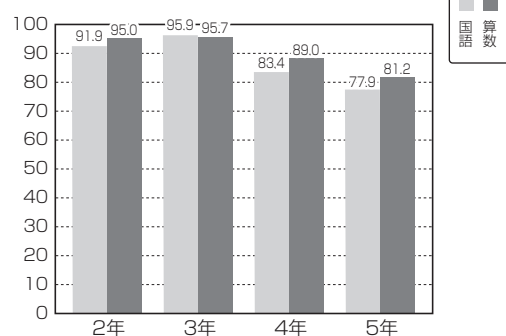
算数科



国語科



国語科と算数科の平均正答率



以上の結果を踏まえて次のような研究を進めています。

基礎学力の定着と自ら学ぶ学習態度の育成
「わかる・できる」を目指した授業づくり

- 具体的には①授業力の向上、②基礎学力の定着、③家庭学習の定着を目指して、昨年度に引き続き取り組んでいます。
- 1、授業力の向上**
 - 全担任が、講師を招いて国語科で研究授業を実施
 - 模擬授業を実施
 - 授業評価を実施して集計結果を活用



- 2、基礎学力の定着**
 - 「読み・書き・計算」の具体的な到達目標（必達目標）を設定
 - 学校として共通した授業中などの約束事（学び方の基礎）を設定
- 3、家庭学習の定着**
 - 家庭学習の習慣化を図るために各学年で「家庭学習の手引き」を作成
 - 保護者との連携を図るため毎学期末に教育相談（個人面談）を実施
 - 国語科の中でも読む力をつけるためには、読書も大切です。本校では毎日、朝十分間の読書タイムや読書まつりを行っています。

- 参観日に保護者が授業評価表に記入

南郷小学校

「豊かな心をもち

主体的に学ぶ

子どもたちを育てる」

校長 黒岩 讓

はじめに

本校は、児童数48名、家庭数33、教職員数11名の小規模校です。校区は、浮津、鞭、口湊川、奥湊川、小川、七区、弘野の7つの地区に分かれています。学校の目の前にはゆったりと黒潮が流れ、野山も広がっており、恵まれた自然環境の中、校庭の記念碑に刻まれている「なかよく かしこく たくましく」の校訓の精神を大切にしながら全校児童が仲良く、助け合い、お互いを磨き合っています。

子どもたちの学力の状況

今年度の初めに実施した標準学力調査結果からわかるように国語も算数も全国平均を上回っている学年がある一方で、教科によっては課題が見られる学年もあります。さらに、個々の子どもたちを見ると、基本的な生活習慣の弱さや学校や家庭での学びの習慣化

が十分に身につけていないというところが要因と考えられる学力の底上げを必要とする児童もいます。

平成21年度標準学力調査結果

	2年	3年	4年	5年
国語	0.97	1.08	1.03	1.04
算数	1.00	1.06	0.89	1.10

※全国得点率を「1」とした得点率指数

学力向上に向けた取り組み

子どもたちの生活や学力の実態に基づき、今年度の校内研究の方針を次のように設定し、研究を進めてきています。

- ①子どもたちが主体的に参加し「わかる・できる」と学ぶことの実感や喜びを味わえる授業づくり
- ②子どもたちの意欲を引き出す評価活動の推進
- ③算数科と国語科の基礎・基本の徹底と効果的な指導法の研究
- ④「生活科」や「総合的な学習」で培う力を明確にし、体験活動や探求活動を通して、問題を解決する力や環境や地域を結びつけて考え

ようとする力の育成

⑤自然環境や物事の変化に気づき、そのことに積極的に関わろうとする豊かな感性の育成

⑥一人ひとりの子どもたちの個性が尊重され、生かされる学級集団づくり

⑦子どもたちの行動や活動などの観察や点検、調査を通して、内面把握に努め、心のやすらぎや安心感が持てる学校づくり

このような研究方針を基本としながら、さらに具体的な取り組みとして、学習規律の徹底と算数科の基本的な授業スタイルの構築をめざし研究を進めてきています。

身につけたい学習規律

- チャイムを守って行動する。
- 学習道具をきちんと揃える。
- 人の話をしっかりと聞く。
- 自分の考えや意見は、聞き手に伝わるように話す。
- 算数科の授業の基本スタイル課題をつかむ↓課題解決への見通しを持つ↓課題解決に挑戦する(自己学習)↓解決方法を伝え合う(学びの深め合い)↓確かめる(学びの活用同様の問題に挑戦

する)↓学習のまとめ(新たな気づきや学びを整理する)

地域の環境を生かした教育活動の展開

本校では、教科で身につけなければならぬ狭義の学力だけでなく、地域の自然や環境、人材を活用しながら身につける広義の学力の育成も大切にしながら日々の教育活動に取り組んでいます。その一端を紹介いたします。

1、米作り体験活動

平成15年度から今年度まで継続的に農業に従事されている保護者や地域の方を支援者として、学校近くの田んぼを借り、米作りの体験活動に取り組んでいます。今年度は、四月の田植えを皮切りに田んぼの管理、畦の草刈り、かかし作りと設置、稲刈り、米の販売、収穫祭に5年生の子どもたちが中心となって、教科書や映像からでは絶対に味わうことのできない苦労や喜びを感じ取る活動ができています。また、この活動を通して、さまざまな人たちとの出会いがあり、温もりや人生の先輩とのふれあいを通して貴重な

学びの場面作りに結びついていきます。



高知市のひろめ市場での販売

2、三世代ふれあい参観日

この活動も地域の方々ともどもたちが交流することができるとなるもの一つとなっています。鞭地区、浮津地区の二つの老人クラブの皆さんが中心となって材料集めから当日の実技指導など全て一手に引き受けてくださり、子どもたちにとっては楽しい交流の一時となっております。今年度は、昨年度まで続けて取り組んできた内容を変え、「クリスマス用のリース作り」に挑戦しました。

おわりに

本校の子どもたちは、地域の宝物として地域ぐるみで大切にされています。地域に恩返しのできる人材に育つよう今後も学校として努力したいと思っております。